

澤田和弘, 山田洋一, ○伊藤真人
(大阪教育大, 宇都宮大教育, 創価大工)

化学教育ジャーナル (Chemical Education Journal, CEJ)¹⁾ は、本学会 SCCJ の前身である化学ソフトウェア学会のプロジェクト「化学の学校」の一環として、上越教育大学の森川鐵朗を編集委員長として1997年に創刊された。2002年に本学会が発足すると共に引き継いで戴き、2009年に編集委員長が澤田に交代して、今年で創刊以来15年目を迎える²⁾。その間、一貫してWWWブラウザで表示可能なhtml文書を基本とする電子媒体のみで公開する雑誌として、ほぼ1年に2回、2011年までに26号を刊行してきた。事務、編集、公開の作業をすべてオランディアベースでお願いしている。

発刊の背景には、コンピュータや情報技術 (ICT) を活用した新しい教育への取り組みにふさわしい情報流通の場として、インターネットが普及しつつあった時代の影響があったが、刊行を継続できたのは、化学教育の現場に携わる教員 (特に大学) がそのアイデアや工夫の成果を発表し、情報交換する場が、それまで充分ではなかったことも大きい。実際、掲載される論文には化学教育の専門家による研究論文 (research paper: 専門家による査読 (referee) を経る) は数少なく、教育現場での教育実践例や教材・教育方法でのアイデアの紹介、化学に特有の新規実験教材の開発あるいは教育界の実態調査の報告などの報文 (paper: 編集委員による通読 (review) を経る) が大部分である。上述したような教育現場の草の根的な努力の成果を発表する場が充分ではないという実情は国際的にも共通であったことから、アジア化学会連合 (FACS) のプロジェクト Asian Chemical Education Network (ACEN) と協力して "Asian Edition in English" の編集委員会²⁾ を発足させ、2000年からは国内版 (ほとんどが日本語) とアジア版 (すべて英語) を概ね交互に刊行している。

昨年末までの刊行実績を Table 1 に示した。これまでに、国内版に90件、アジア版に99件が掲載されている。アジア版への海外からの寄稿は、米国 (11)、マレーシア (8)、台湾 (7)、メキシコ (7) をはじめと28ヶ国から78件に達する。

毎年、着実に刊行されてきたが、創刊から15年を経たこともあり、下記のように課題がないわけではない。

- (1) html文書として投稿することを奨めているが、現実にはWord文書での投稿が大多数を占めている。その結果、html文書への変換の負担が事務局にかかっている。

Table 1 Number of Publication to Domestic and Asian Editions

Vol.	Iss.	Year	国内	Asian	Vol.	Iss.	Year	国内	Asian
1	1	1997	9	-	8	1	2004	3	3
2	1	1998	8	-		2	2005	3	1
	2		11	-	9	1	2006	-	5
3	1	1999	6	-		2	2007	1	8
	2		5	-	10	1		5	2
4	1	2000	-	13		2	2008	-	9
	2		2	1	11	1		4	-
5	1	2001	13	2		2		1	4
	2	2002	-	8	12	1	2009	-	5
6	1		3	-		2		5	-
	2	2003	-	5	13	1		-	11
7	1		8	-		2	2010	-	11
	2	2004	-	8	14	1	2011	3	3

(2) 画像やAV素材を取り入れるなど、WWWの機能を有効に活用した投稿がそれほど多くない。

(3) 刊行頻度が少ないため、投稿から公開までの時間が長くなることもある。

(4) pdfによる文書の公開が一般化してきた。

(5) 授業支援システムの導入が進むと共に、授業や実験でのICTやソフトウェアの活用が一般的になってきた。単に「使う」だけでは新規性を欠く一方、現場の教員が手作りで開発する余地が少なくなっている。

一方で、化学に対する社会的認知の増進がIUPACによって国際的に提起されるなど、社会教育・生涯教育をも視野に入れると、コンピュータおよびICTが化学教育・学習支援に果たすべき役割は今後ますます大きくなることが期待される。国際的な情報交換と交流の推進に果たすべき電子雑誌の役割も同様である。本誌も時代を見据えて上記の課題に取り組み、国内はもとよりアジアおよび世界で、よりよくその役割を担うことができるように努める必要がある。SCCJおよび会員諸賢によるこれまでのバックアップに心から感謝すると共に、今後も更なる支援をお願いしたい。

1) 化学教育ジャーナル : url = <http://chem.sci.utsunomiya-u.ac.jp/>.

2) 他の編集委員 : (国内) 芦田実 (埼玉大教育), 一色健司 (高知県立大生活科学), 及川義道 (東海大理), 榊原正明 (鳥取大工), 田口哲 (北海道教育大札幌校), 立花宏 (首都大都市環境科学), Newbold, B. (Univ. de Moncton, Canada), 山田洋一 (事務局, 宇都宮大教育), 吉村忠与志 (福井高専), 吉村洋介 (京都大理) : (アジア) Cuyegkeng, Ma. A. C. (Ateneo de Manila Univ., Philippines), Fernando, J. N. O. (Open Univ. Sri Lanka), Hollingworth, R. W. (Univ. New England, Australia), Ratananukul, P. (Srinakharinwirot Univ., Thailand), Sotheeswaran, S. (Univ. South Pacific, Fiji), Zakaria, Z. (Univ. Kebangsaan Malaysia), Zhuang, Q. (Peking Univ., China).